

2024年5月期 決算説明資料

2024年7月



 **室町ケミカル株式会社**
(東証スタンダード 証券コード：4885)

1. 会社概要

2. 2024年5月期 決算概要

3. 業績予想

4. 取り組み状況・トピックス

5. 中期経営計画の進捗

6. 参考資料

会社概要



会社名	室町ケミカル株式会社 (MUROMACHI CHEMICALS INC.)
代表者	代表取締役社長 青木 淳一
設立	1947年7月 (創立: 1917年1月)
資本金	143,172千円
従業員	205名 (パート・臨時従業員を除く) 2024年5月末現在

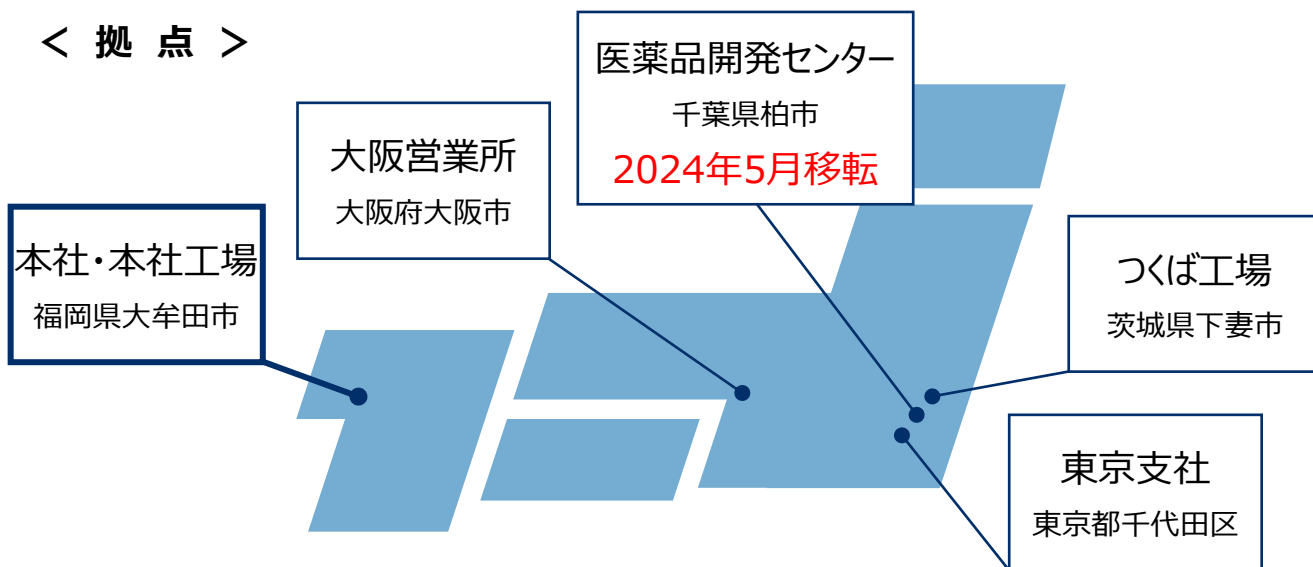


創立当時 (1917年頃)



大牟田市 本社工場

< 拠点 >



< パーパス >

「健康」と「環境」をテーマに、社会へ貢献する



< 経営理念 >

私たちは人々との出会いを大切にし、
常に新たなチャレンジと実現化の努力により生きがいと豊かさを提供し、
健全な発展を通して社会に貢献する経営を目指します。

「医薬品」「健康食品」「化学品」の3事業

医薬品事業

医薬品原薬（薬の有効成分）の製造・販売



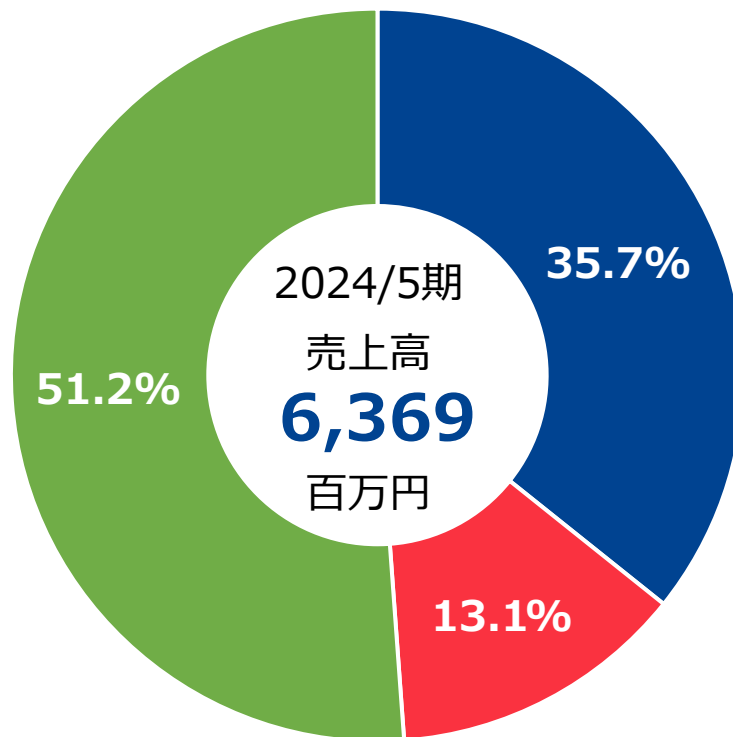
原薬の製造



原薬の精製・異物除去



海外原薬の輸入販売



化学品事業

液体から不純物を取り除く液体処理製品の販売・加工



イオン交換樹脂



分離膜



水処理装置



イオン交換樹脂再生設備

健康食品事業

スティックゼリータイプなどの健康食品の企画・製造



スティックゼリー



Tパウチゼリー

2024年5月期 決算概要



- 売上は前年同期比で微増
- 工場稼働率向上や売上商品構成の変化により原価率は3事業共に改善
- 販売費及び一般管理費については当初計画通り

(百万円)

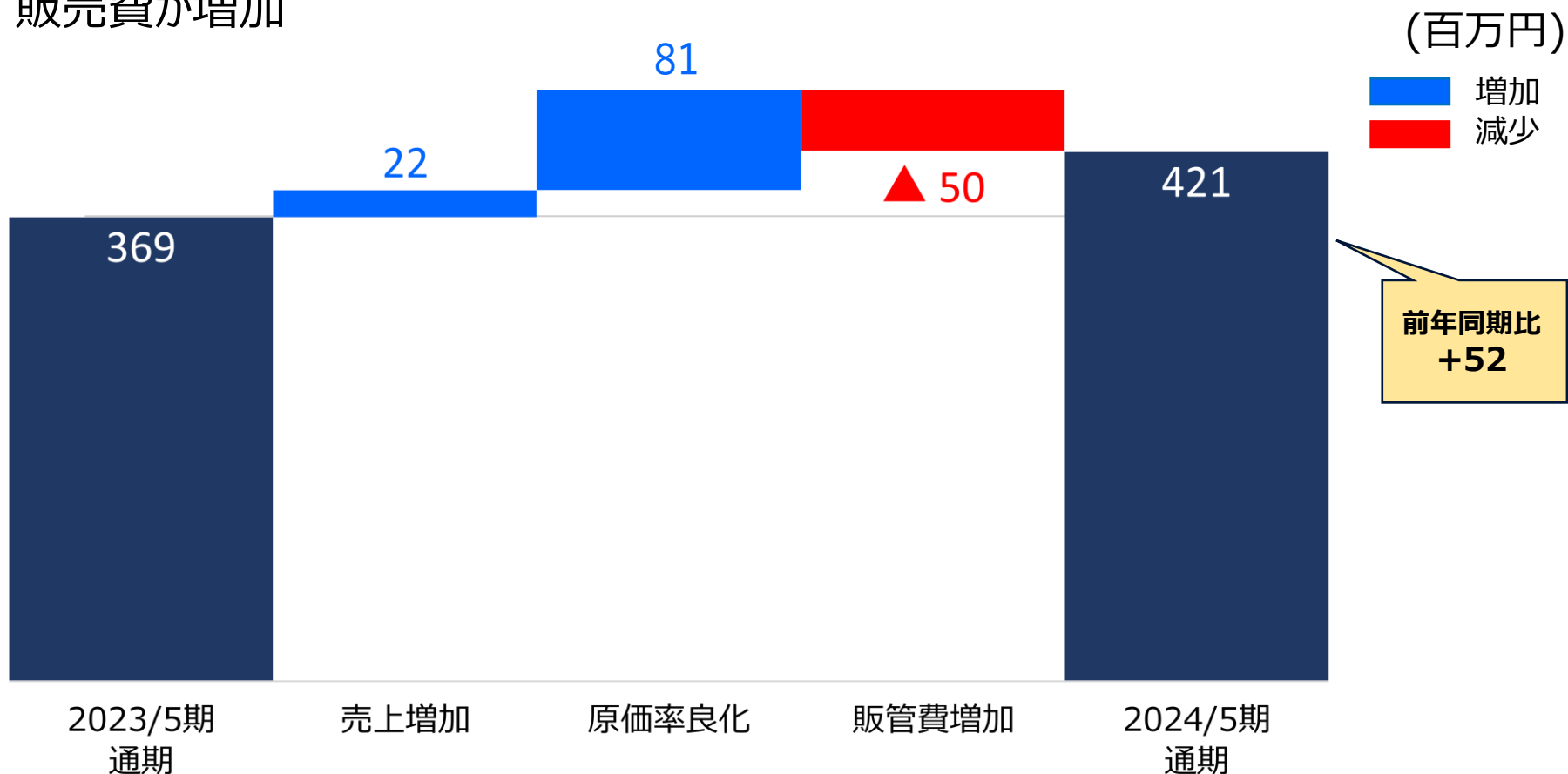
	2023/5期 通期		2024/5期 通期		前年同期比	
		構成比		構成比		増減率
売上高	6,291	100.0%	6,369	100.0%	+77	+1.2%
売上原価	4,539	72.2%	4,514	70.9%	△25	△0.6%
売上総利益	1,752	27.8%	1,854	29.1%	+102	+5.9%
販売費及び 一般管理費	1,382	22.0%	1,432	22.5%	+50	+3.6%
営業利益	369	5.9%	421	6.6%	+52	+14.2%
経常利益	350	5.6%	428	6.7%	+77	+22.0%
当期純利益	256	4.1%	330	5.2%	+73	+28.8%

- 医薬品事業は原薬の売上の減少により減収減益
- 健康食品事業はOEMゼリーの売上増加と原価率改善により増収・損失圧縮
- 化学品事業は主にイオン交換樹脂の伸長により増収・損失圧縮

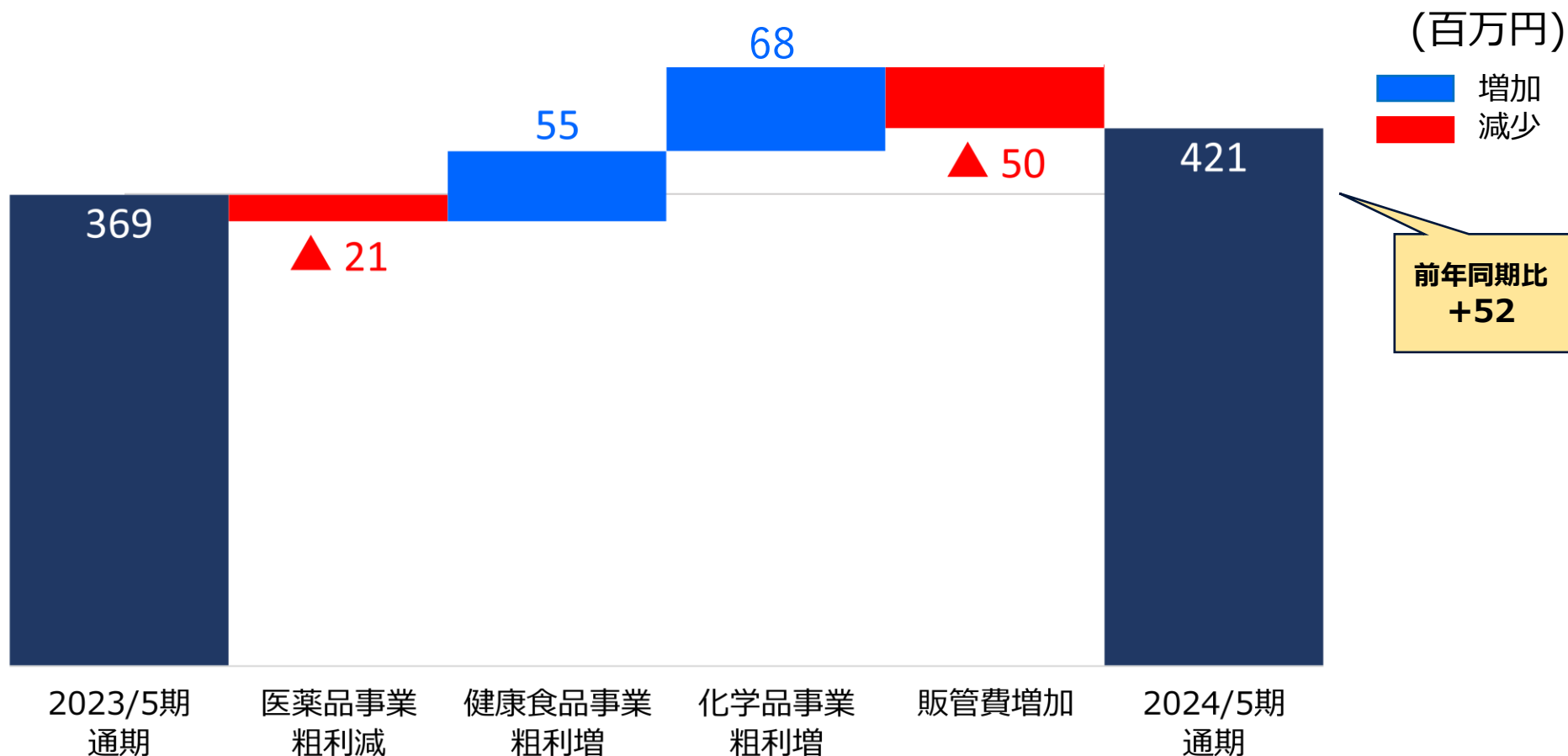
(百万円)

		2023年5月期		2024年5月期		前年同期比	
			構成比		構成比		増減率
売上高	医薬品事業	3,525	56.0%	3,258	51.2%	△266	△7.6%
	健康食品事業	657	10.5%	834	13.1%	176	26.9%
	化学品事業	2,108	33.5%	2,276	35.7%	167	8.0%
営業利益	医薬品事業	539	—	475	—	△63	△11.7%
	健康食品事業	△120	—	△ 37	—	82	—
	化学品事業	△49	—	△ 16	—	33	—

- 売上微増と原価率改善により、売上総利益が増加
- 研究開発費が増加（医薬品・化学品）
- 行動制限解除に伴い海外渡航を再開したこと、および展示会出展が増えたことにより、販売費が増加

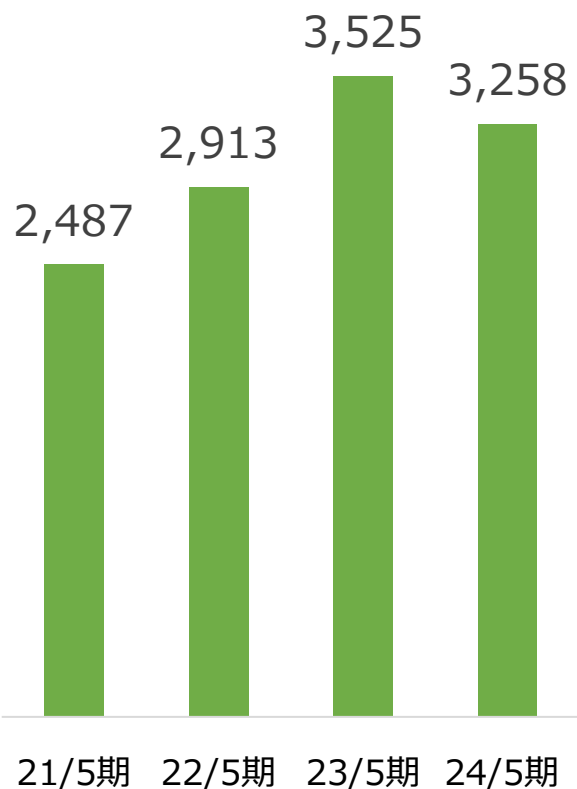


- 医薬品事業は、売上は減少したものの、売上構成品目の変化により原価率は改善
- 健康食品事業および化学品事業は、売上が前期を上回り、製造効率改善および売上構成品目の変化により原価率が改善



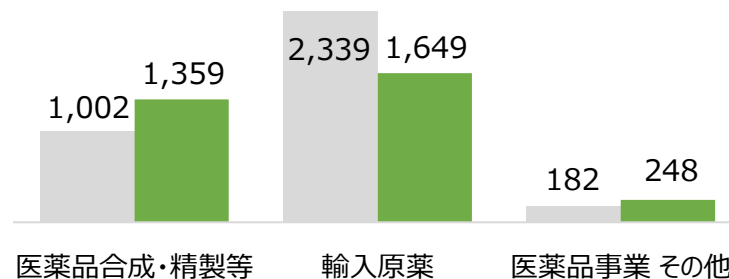
売上高 3,258百万円	(前年同期比) (92.4%)	営業利益 475百万円	(前年同期比) (88.3%)
-------------------------------	--------------------	------------------------------	--------------------

■ 売上高推移 (単位：百万円)



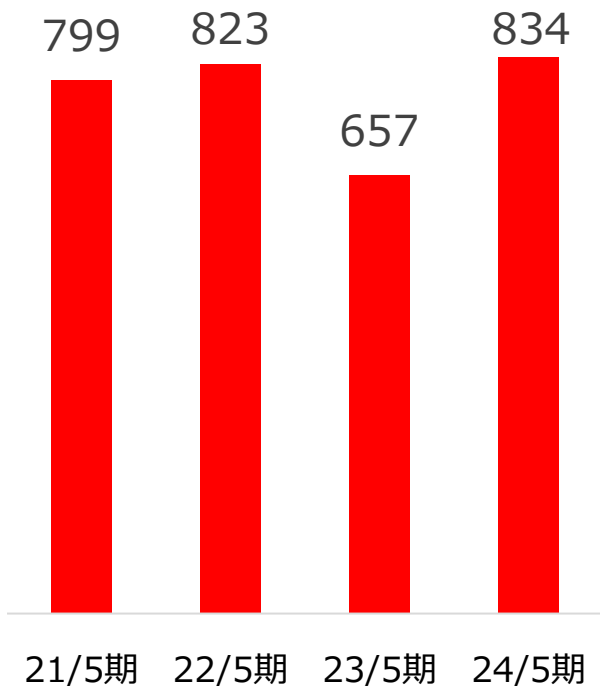
- 既存品の成長と複数の新規合成品目立ち上げにより、自社製造品の売上が増加
- 輸入原薬は、主力の抗てんかん薬用原薬の一時的な需要増が収束し売上減少
- 開発センターの移転・拡張や海外渡航等、開発費・販売費を積極的に投下
- 新規の輸入原薬の取り扱いに向けた活動と、合成・精製等の自社製造案件の立上げに尽力

■ 商材別売上高 (単位：百万円・■：前期 ■：今期)



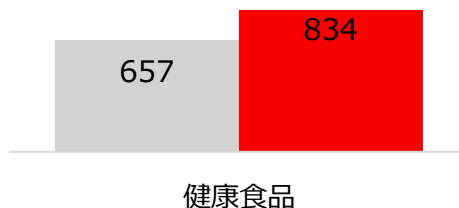
売上高 834百万円	(前年同期比) (126.9%)	営業損失 ▲ 37百万円	(前年同期) (▲ 120百万円)
-----------------------------	---------------------	-------------------------------	----------------------

■ 売上高推移 (単位：百万円)



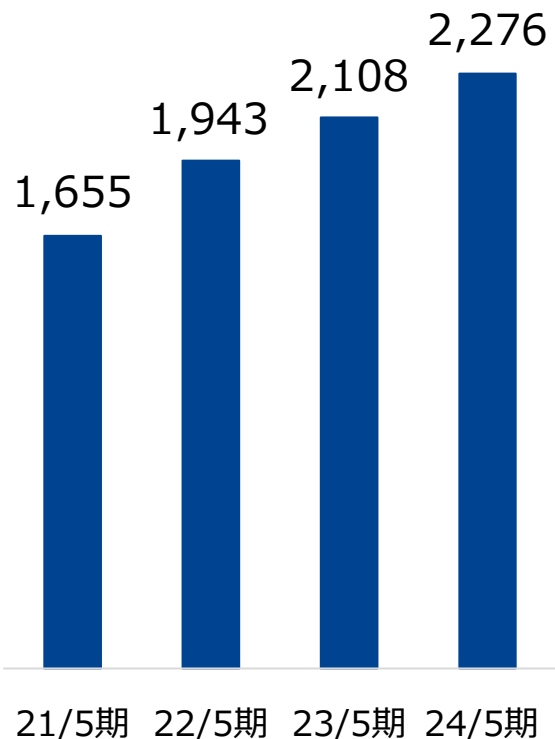
- 不調だった一部のOEM主力品の売上回復、および新規・大型OEM品の販売開始による効果で売上伸長
- 工場稼働率向上と、仕入原料価格の高騰分を販売価格に転嫁したことにより、製造原価率が改善
- 損益改善に向けて、生産体制の見直し等の製造原価低減策を実行

■ 商材別売上高 (単位：百万円・■：前期 ■：今期)



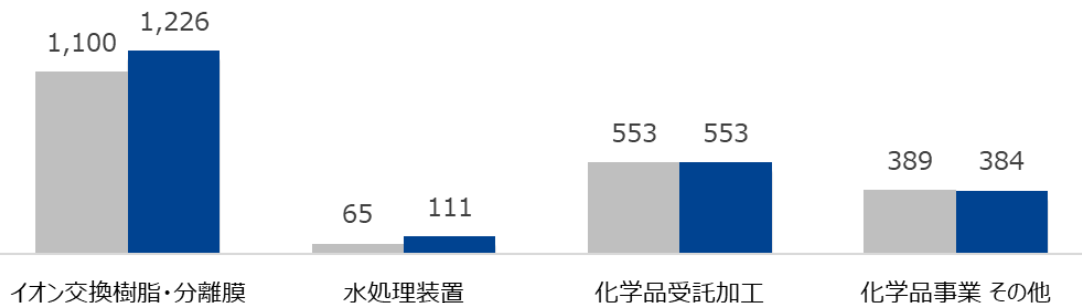
売上高 2,276百万円	(前年同期比) (108.0%)	営業損失 ▲ 16百万円	(前年同期) (▲ 49百万円)
-------------------------------	---------------------	-------------------------------	---------------------

■ 売上高推移 (単位：百万円)

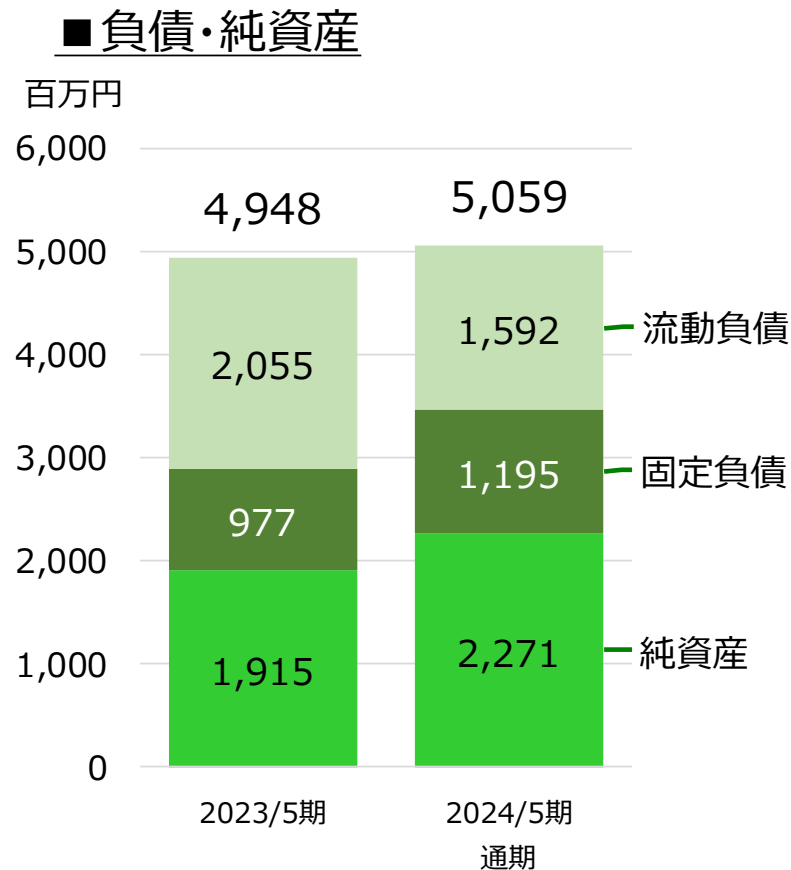
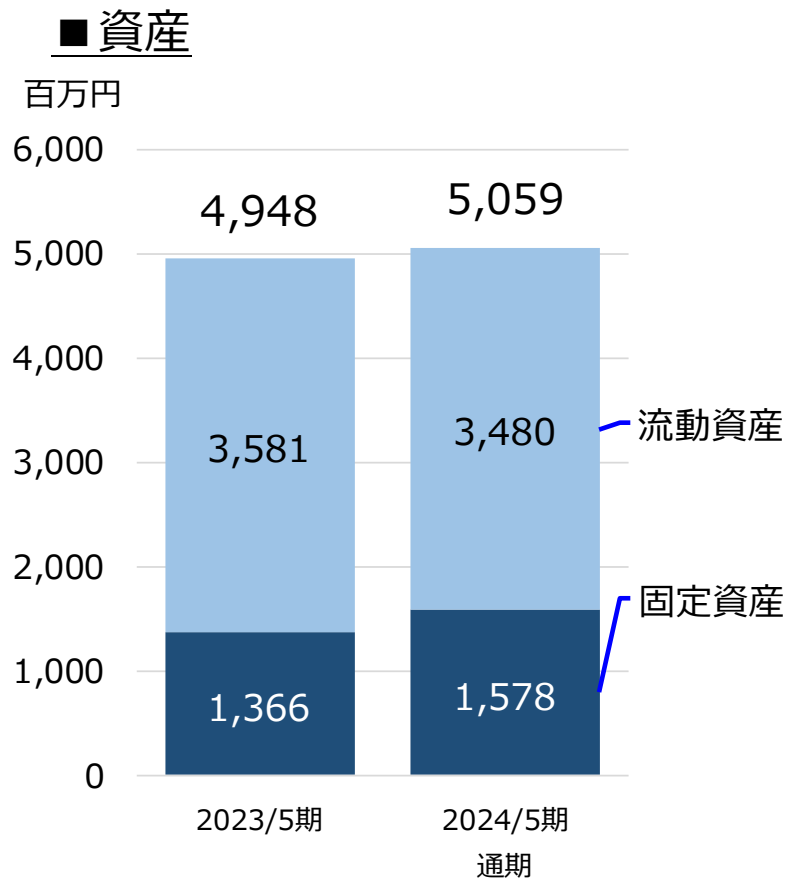


- 主力のイオン交換樹脂は着実に増収（医薬品・化学品工場向けの新規案件等）
- 大型装置の販売も売上増加に寄与
- 高機能イオン交換樹脂への注目度の高まりや排水規制の強化等の追い風を受け、営業・開発活動に注力（海外大型市場の開拓・国内研究機関との協業等）

■ 商材別売上高 (単位：百万円・■：前期 ■：今期)



- 投資計画を見据えた財務戦略に基づき、借入金の長短バランスを調整
 (短期借入金：500百万円→10百万円、長期借入金*：1,068百万円→1,422百万円)
*1年内返済予定の長期借入金を含む

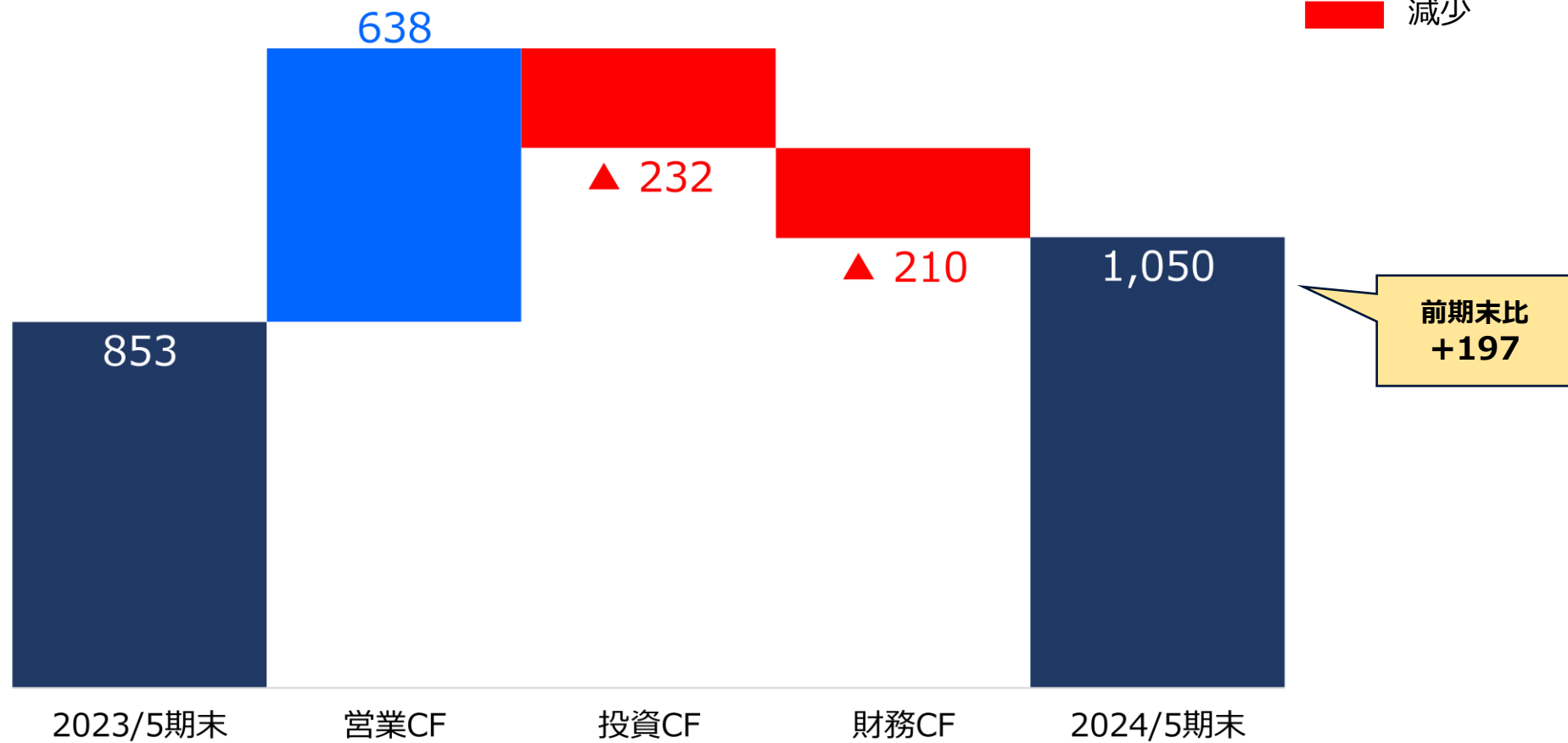


自己資本比率：44.9% (前期末比 +6.2pt)

- 医薬品工場の機械・設備導入やレイアウト変更、医薬品開発センター移転、等の設備投資を実施

(百万円)

■ 増加
■ 減少



業績予想



- 売上高は3事業ともに拡大する見込み
- 化学品の製造体制見直しと健康食品の製造効率改善により原価率は改善
- 成長を見据えた設備投資による減価償却費増加
- ベースアップ実施による人件費増加

(百万円)

	2024/5期		2025/5期予想		前期比	
		構成比		構成比		増減率
売上高	6,369	100%	6,700	100%	331	5.2%
営業利益	421	6.6%	450	6.7%	29	6.7%
経常利益	428	6.7%	430	6.4%	2	0.4%
当期純利益	330	5.2%	300	4.5%	△30	-9.1%
配当金 (円/株)	22.0	-	25.0	-	3.0	13.6%
減価償却費	136	-	202	-	66	48.5%
設備投資額	289	-	97	-	△192	-66.4%

医薬品
事業

売上高

2024年5月期

3,258 百万円



2025年5月期

3,300 百万円

- ・抗てんかん薬用原薬は横ばいも、新規取扱品目等で輸入原薬の売上が伸長
- ・新規合成案件の立上げを着実に進める

健康食品
事業

売上高

2024年5月期

834 百万円



2025年5月期

1,000 百万円

- ・OEMゼリーの売上が伸長。受注増による効率改善とフレキシブルな生産体制により、更なる原価率の改善を進める

化学品
事業

売上高

2024年5月期

2,276 百万円



2025年5月期

2,400 百万円

- ・引き続きイオン交換樹脂の販売が堅調に推移する見通し
- ・生産体制の見直しにより、原価率が改善する見込み

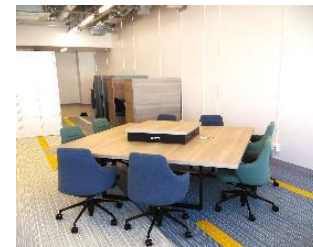
取り組み状況・トピックス



医薬品開発センター移転完了

2024年5月に開発センターの移転（埼玉県和光市→千葉県柏市）が完了し稼働

- ◆占有スペースが大幅に拡張（139.5㎡→224.3㎡）
- ◆東京支社や都心部の顧客へのアクセスが改善
- ◆整った職場環境により、人材確保に好影響を見込む
- ◆設備・環境・人材の充実により、研究開発を加速



～三井リンクラボ柏の葉～

- ・2021年に開設した賃貸ラボ施設
- ・ラボに特化した特徴と充実した共用設備を持つ
- ・多数の研究関連施設やベンチャー企業、医療機関等が近隣に存在する
- ・テナント内の企業同士や近隣研究機関との交流を促す様々な取り組みをサポートする仕組みを持つ

医薬品事業

新製品生産対応に向けた医薬品工場の設備投資（アップデート情報）

- ・治験用(少量)～商用サイズまで、ワンストップで対応できる体制を強化中
- ・総設備投資額：約2.5億円（2023年5月期～2025年5月期）
- ・既に具体化している案件で、2026年5月期以降に約3億円/年の売上を見込む
- ・現時点で、小規模の合成（少量合成）用設備の設置が完了。今後も新たな設備・機器の導入を図り、製造効率の上昇と製造キャパの拡大を進める



健康食品事業

中高年向け大型OEM商品販売開始

- ・中高年向けのOEM商品（機能性表示食品）を2024年2月より販売開始
- ・独特な風味のある漢方由来成分を当社のマスキング技術で食べやすい味に加工
- ・今後も引き続き人々の「健康」に貢献できる美味しく続けやすいゼリーの製造に優先的に取り組む



3事業共通

特許取得活動状況

- ・技術の保護と競争優位の確保のために、確立した技術の特許取得を推進中

2024年5月期	登録済	1件	「可搬式水処理システム及び水処理方法」特許第7316016号
	出願済	4件	イオン交換樹脂の応用技術、尿素水関連技術
2025年5月期	出願予定	5件	イオン交換樹脂を使用した原薬の製造方法、イオン交換樹脂の応用技術 ほか

化学品事業

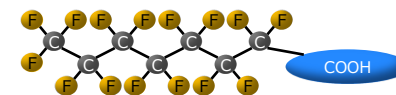
PFAS関連情報アップデート

・PFAS測定に関する共同研究開始

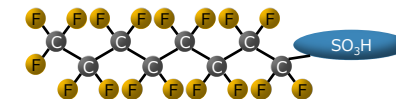
国立大学法人東京学芸大学と、「有機フッ素化合物の高感度分析法に関する基礎検討」の共同研究契約を締結。

現行のPFAS分析機器は、非常に高価で前処理にも時間がかかるため、まずは簡便にPFASを分析できる技術の確立を目指す。

※PFASとは…有機フッ素化合物の総称。自然界で分解されず残存するため、人体への悪影響が懸念されている。



ペルフルオロオクタン酸 (PFOA)



ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS)

化学品事業

新たな業界へ進出

■ 電力業界

- ・海外メーカーとの共同開発品である「高架橋イオン交換樹脂」の電力業界での採用が拡大中
- ・2023年1月、某火力発電所での初採用を皮切りに、他2つの発電所で採用決定
- ・同発電所内での他の使用用途での採用も決定
- ・採用実績を武器に全国の発電所への拡販活動実施中（ピーク時売上目標：4億円/年）

■ 製糖業界

- ・拡販の努力が実り、製糖業界での当社イオン交換樹脂の採用が決定
- ・砂糖の製造過程における、脱塩・脱色工程にて使用
- ・ピーク時売上：1億円/年を目指して拡販強化中



従業員エンゲージメント向上施策

持続的な成長に向け、従業員が能力を最大限に発揮し、働き続けられることを重要視しております。当期は、定着率・ワークライフバランス・業務効率の改善や環境変化への適応等を目的として、下記の施策を導入しました。

- ◆ ベースアップ（平均昇給率6.5%）および新卒初任給の見直し
- ◆ 「テレワーク」や「時差出勤」を正式に導入
- ◆ オフィスカジュアルの導入
- ◆ 作業環境に応じた作業服の種類追加（色のバリエーション・半そで）
- ◆ 所定労働時間の短縮（昼休憩時間の延長）
- ◆ 時間有給休暇の取得制限を緩和（24h → 40h /年）



中期経営計画の進捗



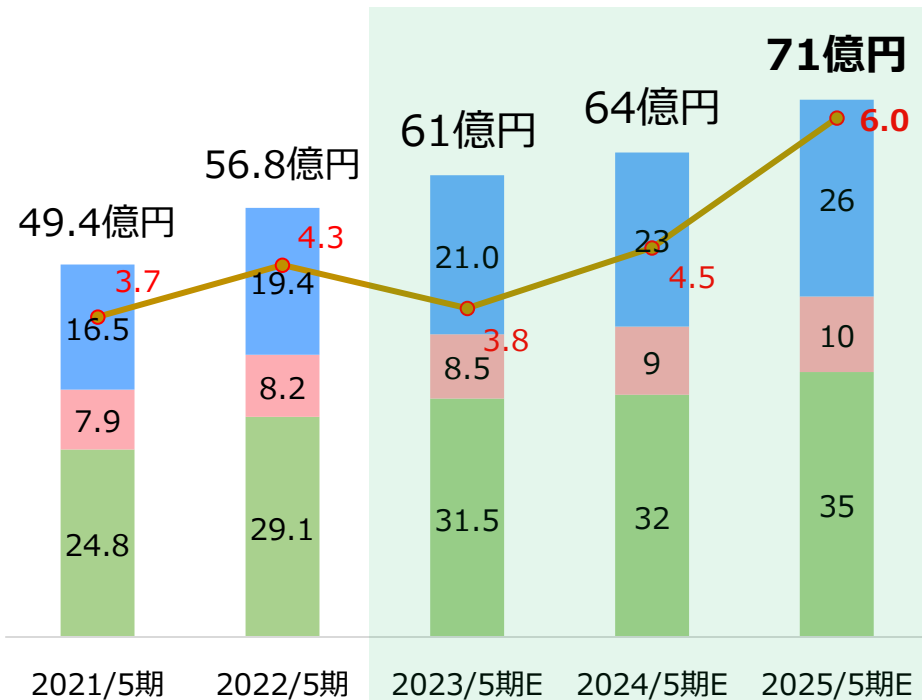
売上高：71億円
(対FY22：+25.0%)

営業利益：6億円
(対FY22：+37.2%)

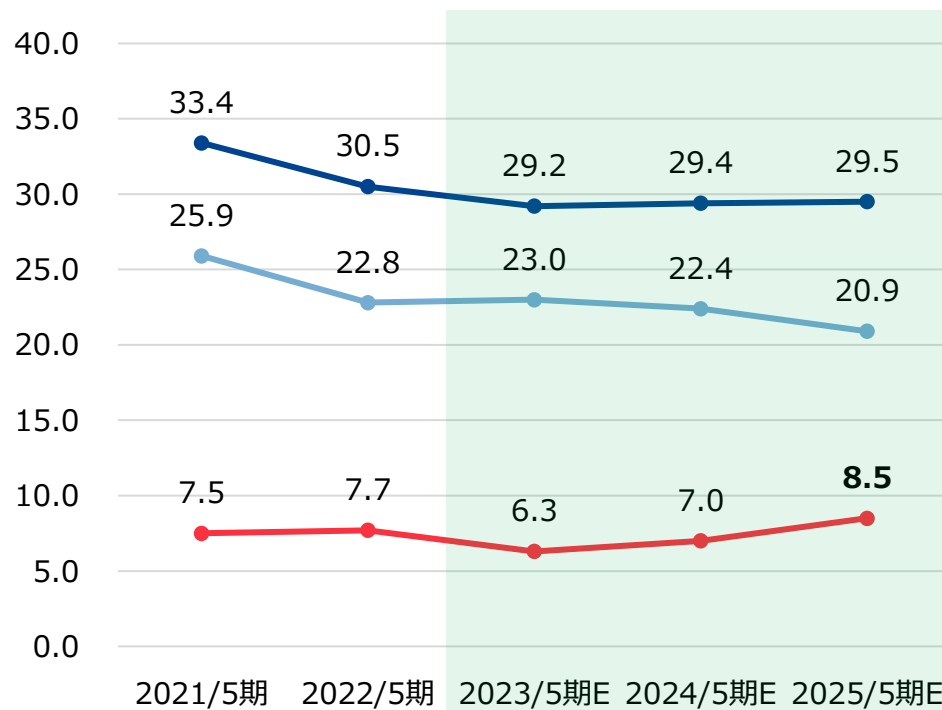
営業利益率：8.5%
(対FY22：+0.8P)

売上総利益率を維持しつつ、売上を伸ばすことで、営業利益増加を図る。

売上高・営業利益 計画 (単位：億円)



各利益率 計画 (単位：%)



■ 医薬品 売上高 ■ 健康食品 売上高 ■ 化学品 売上高 ● 営業利益

● 売上総利益率 ● 販管費率 ● 営業利益率

（医薬品）

- 輸入原薬の横展開によるシェア拡大
- 特異技術による自社新製品の立上げ
- 治験薬の受託合成による新薬開発サポート
- 多拠点(欧州～東アジア)からの調達ネットワーク構築
- 新規海外調達先の日本品質基準への対応サポート

（化学品）

- 海外イオン交換樹脂メーカーとの共同開発品の拡販
 - 火力・原発向け高架橋度イオン交換樹脂
 - 半導体関連向け高純度イオン交換樹脂
- 競合の少ない特殊な液体処理でのニーズ取込み

（健康食品）

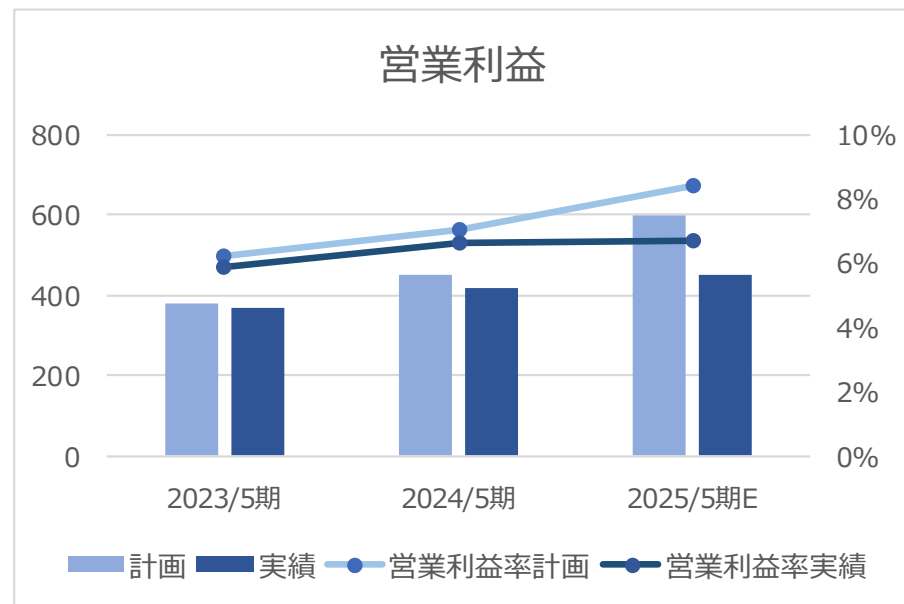
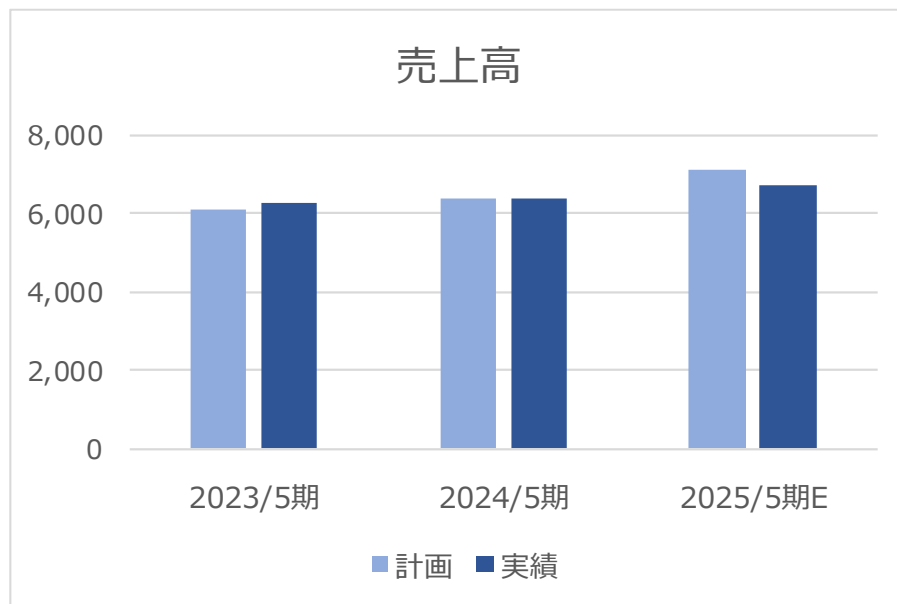
- 通販業者向けODM製品の拡販
- 原材料メーカーとの協業による顧客獲得
- 機能性表示に対応した製品の企画・提案
- 高齢者向け製品への応用加速
- 容量増に対応できる『Tパウチ・ショット』の拡販

（生産・品質・管理）

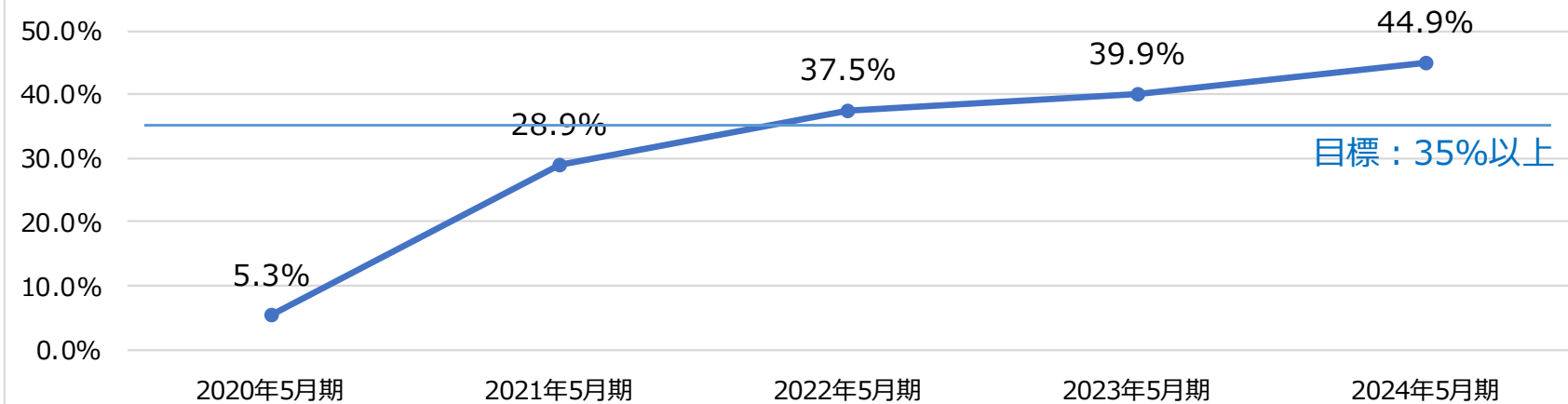
- 効率的な工場運営
 - 新規開発案件立ち上げに伴う製造ラインの最適化
 - 生産量増加に伴うインフラ及び物流戦略の再構築
 - 原価低減の取り組み
- 法令遵守体制の継続
- 抜け漏れのない品質管理体制の維持・強化
- より強固な文書管理体制の構築
- 人材の育成、職場環境の改善、従業員満足度の向上

(百万円)

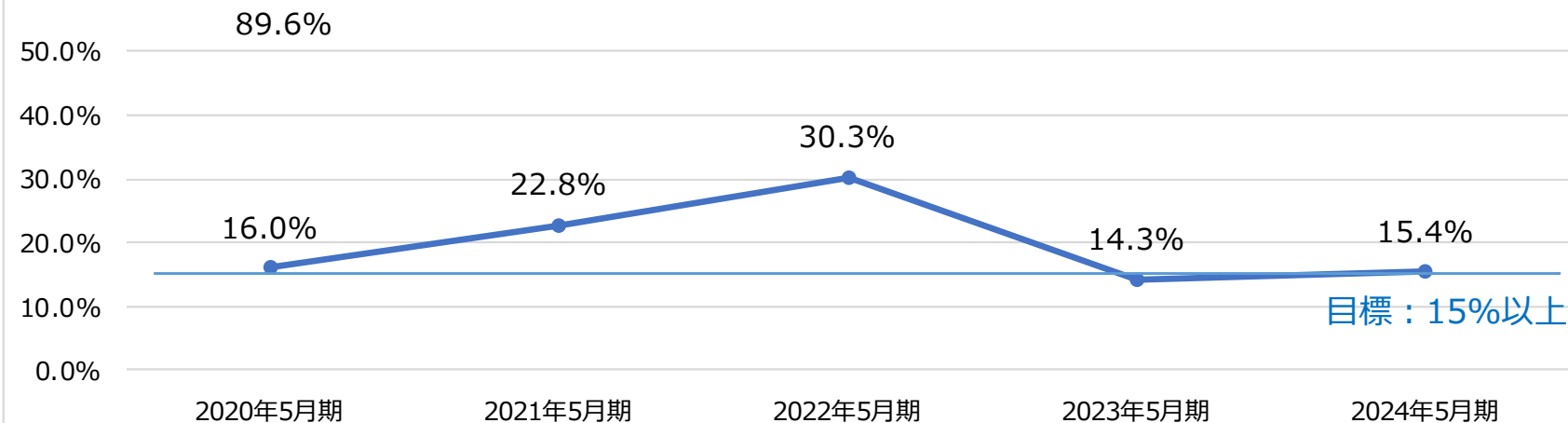
	2023/5期		2024/5期		2025/5期	
	計画	実績	計画	実績	計画	業績予想
売上高	6,100	6,291	6,400	6,369	7,100	6,700
営業利益	380	369	450	421	600	450
営業利益率	6.2%	5.9%	7.0%	6.6%	8.5%	6.7%



自己資本比率

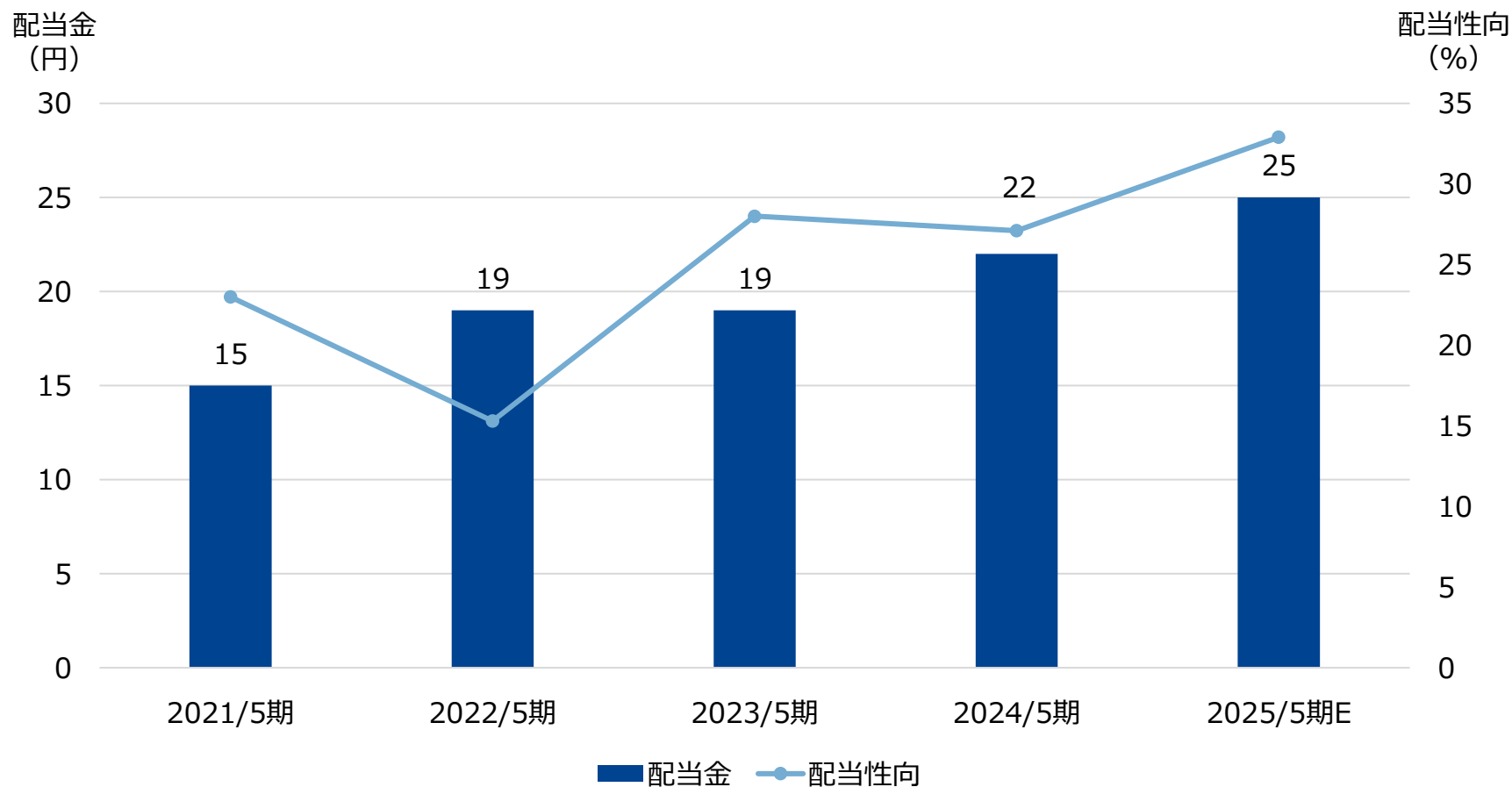


ROE



安定配当を基本

～配当性向20%以上を目標に業績に応じた安定的な配当方針～



参考資料



明治期 福岡県須恵町において「須恵目薬」の製造・販売開始

1917年 福岡県直方市に「大洋製薬合資会社」を設立

1924年 福岡市東区に移転『天洋社』と改称

1938年 福岡市南区に移転。

1944年 戦時企業整備（県内の製薬会社を1社にする制度）により会社を解散し、一時廃業

1947年 戦後、「鉄ペプトン製薬有限会社」として再設立

1948年 販売会社として、「株式会社天洋社」を再設立

1950年 「株式会社天洋社」を「鉄ペプトン製薬有限会社」に合併し、社名を「天洋社薬品有限会社」とする。

1952年 社名を「天洋社薬品工業株式会社」と改称

1971年 ムロマチグループに参入

1996年 福岡県大牟田市に本社工場を新築移転

1998年 『室町ケミカル株式会社』に社名変更

1999年 医薬品第二工場を新設 ISO9001認証取得

2003年 本社隣接地に物流倉庫新設

2005年 『天洋社薬品株式会社』設立 東京支店開設

2006年 健康食品製造工場操業開始
表面処理工場操業開始

2009年 新事務所竣工

2010年 コンパウンド工場操業開始 表面処理事業より撤退

2010年 室町(上海)商貿有限公司設立

2011年 第三医薬品工場新設 尿素水工場操業開始
ムロマチテクノス株式会社より、つくば工場譲受

2013年 新勝立倉庫竣工
東京都千代田区神田駿河台に東京支店を移転

2014年 『東進ケミカル株式会社』の全株式を取得し
100%子会社化
ムロマチテクノス株式会社を吸収合併

2016年 つくば工場にインキ接着剤工場を新設
機能性樹脂コンパウンド事業より撤退
大牟田本社に医薬品ゼリー工場を新設

2017年 東進ケミカル株式会社を吸収合併
大牟田本社に医薬品合成工場を新設

2018年 天洋社薬品株式会社を吸収合併

2019年 埼玉工場を閉鎖

2020年 埼玉県和光市に埼玉開発センターを開設

2021年 東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)市場に上場

2024年 埼玉開発センターを千葉県柏市に移転し、医薬品開発センターと改称

長年培った技術を活かし、お客様の事業をサポートします。

医薬品 事業

メーカー機能と商社機能を併せ持ち、原薬に関わる様々なサービスを提供

品質と価格を満たす原薬を調達できる「商社機能」と医薬品製造の「メーカー機能」を併せ持ち、原薬に関するトータルサービス（輸入・製造・加工・分析）を提供します。

健康食品 事業

高度なマスキング技術で、求める“おいしさ”を具現化

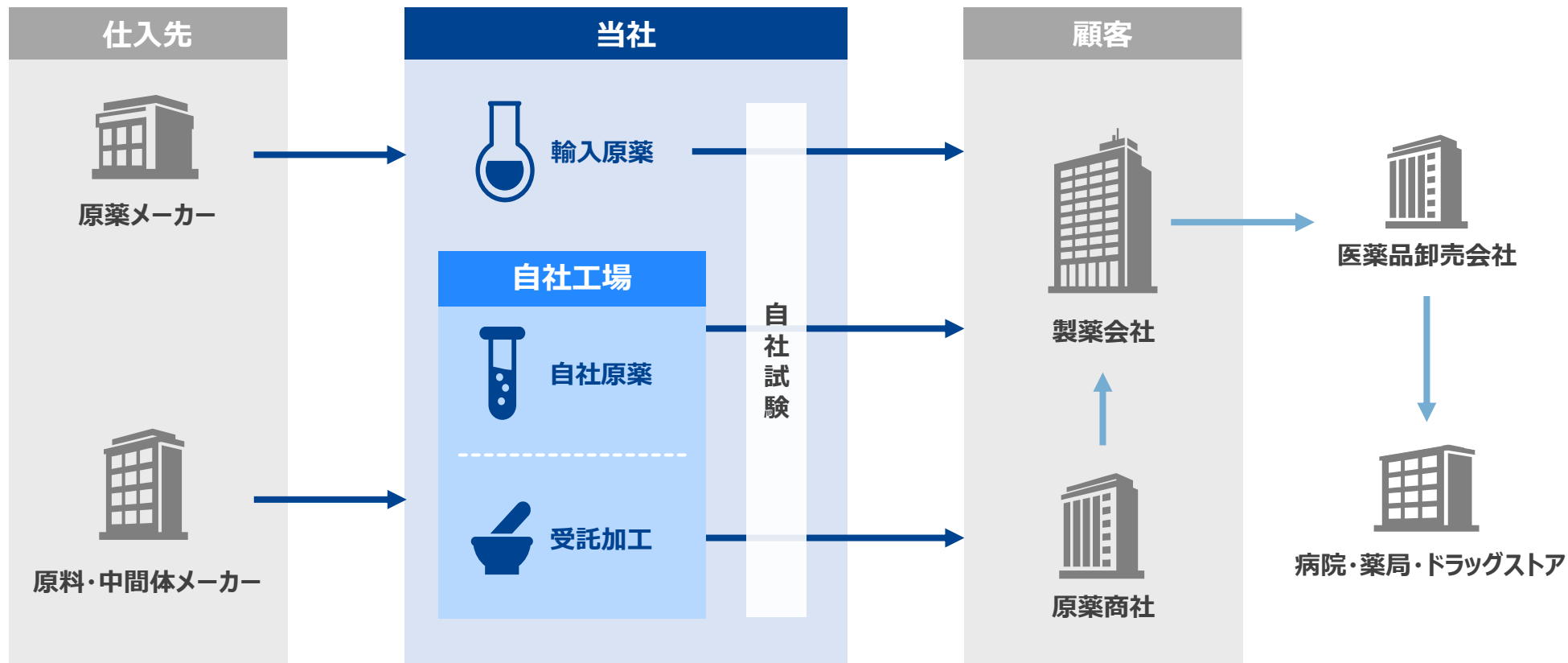
健康・美容成分には食べづらい味や匂いのももありますが、それらを包み隠す「マスキング技術」で、続けることが大切な健康食品にとって重要な「おいしさ」のご要望にお応えします。

化学品 事業

特殊な用途にも対応できる技術で液体処理の課題を解決

排水の処理や薬品の精製などの特殊な用途でも、豊富な製品ラインナップと長年培ってきたノウハウで最適な製品や処理方法をご提案します。

病院や薬局などで提供される医薬品は、有効成分となる「原薬」と様々な添加剤で出来ています。当社の医薬品事業では、この「原薬」の製造・販売を行っています。現在当社が取り扱っている原薬は、医療用医薬品* (ジェネリック医薬品*) 向けが主となっております。



* 医療用医薬品(医家向け医薬品)

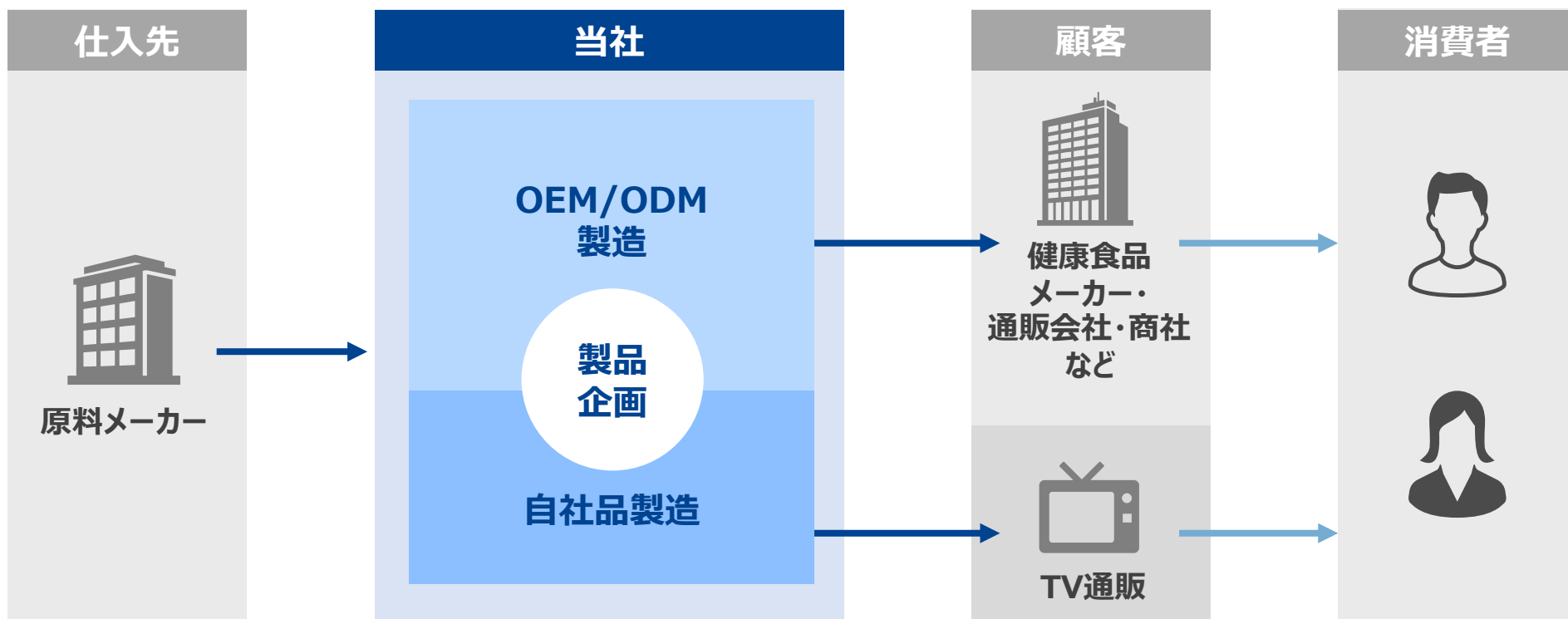
・・・病院で医師の診断をもとに処方してもらう薬のこと。対して、薬局等で購入できる薬を一般用医薬品(OTC薬品、市販薬)という。

* ジェネリック医薬品(後発医薬品)

・・・新薬(先発医薬品)の特許が切れた後、同じ有効成分を使って製造される薬。新薬に比べ開発費用が抑えられるため低価格で提供される。

健康食品には、錠剤、カプセル、粉体、ドリンクなど様々な形態がありますが、当社は、「スティックゼリー」タイプの健康食品の企画・製造を行っています。現在は、OEM・ODM*が主となっており、売上の8割を占めています。

スティックゼリーの健康食品は、おやつ感覚でおいしく、水が無くても摂取できる、携帯しやすい、などの特徴があります。



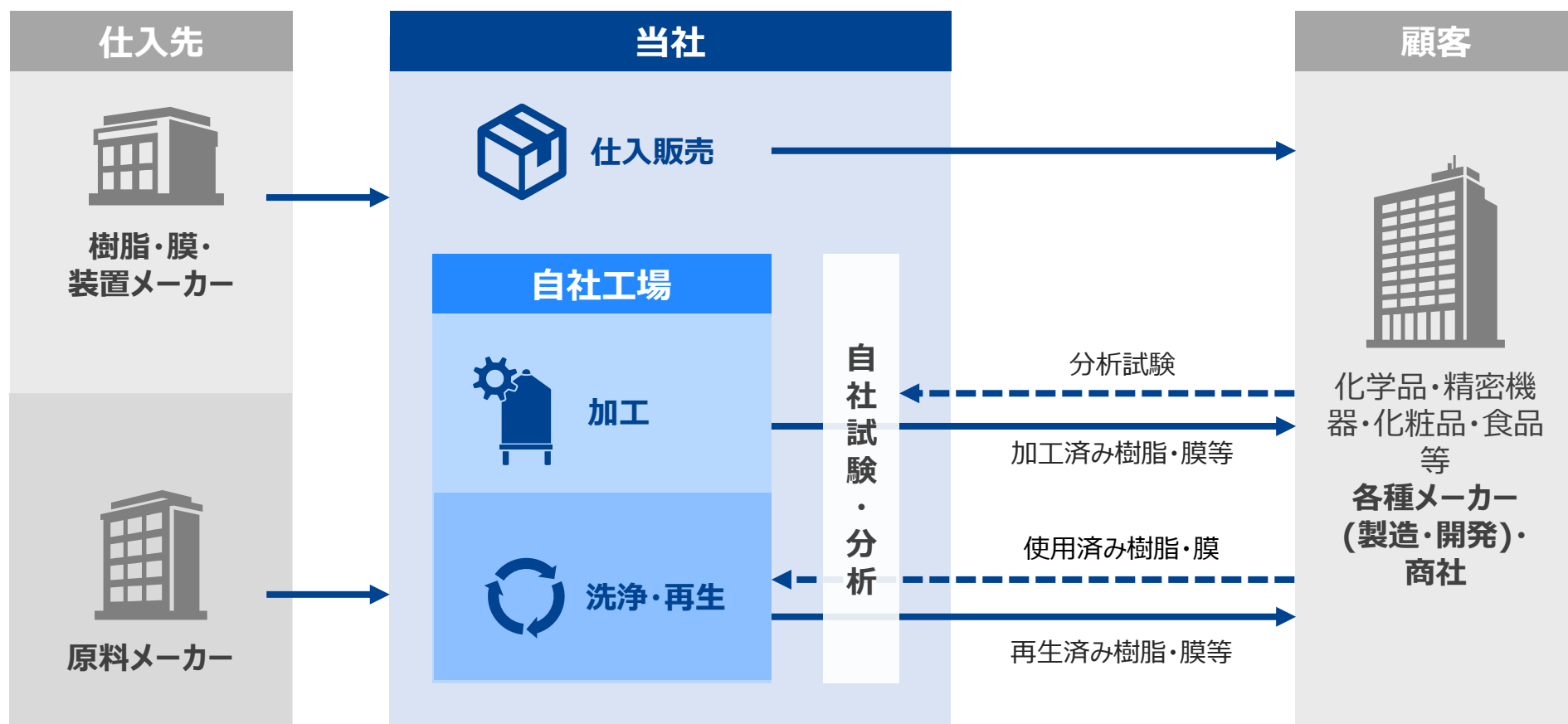
* ODM (Original Design Manufacturing)

…発注元企業のブランド名で販売される製品の、製造のみを行うOEM (Original Equipment Manufacturing) に対し、ODMは企画や設計、製造までを行う。

液体処理に使用される「イオン交換樹脂」や「分離膜」を取り扱っています。目的に適した製品の提案をするほか、使用に適するよう加工も行います。

様々な業界の製造や開発の現場で使用される純水や軟水の製造、薬品の精製、排水の処理など、活用される場面は多岐にわたります。

他に、接着剤やペーストなど機能材料の加工や販売をおこなっています。



∞ ひろがる、ケミカル。

 室町ケミカル株式会社

(東証スタンダード 証券コード：4885)

<https://www.muro-chem.co.jp/>

〈本資料に関するお問い合わせ先〉

室町ケミカル株式会社 経営企画室

E-mail : ir-kikaku@muro-chem.co.jp

〈本資料取扱上の注意点〉

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、経営環境の変化等により、予告なしに変更される可能性があります。また、実際の業績等は様々な要因により変動する可能性があります。

掲載の内容については未監査の数値も含まれており、確度を保証するものではありません。また、掲載された情報やその誤りについて、その理由に関わらず、当社は一切責任を負うものではありません。

本資料は投資家の皆様に当社をご理解いただくことを目的として当社が作成したものであり、投資勧誘を目的にしたものではありません。投資に関するご決定は皆様ご自身のご判断で行うようお願いいたします。